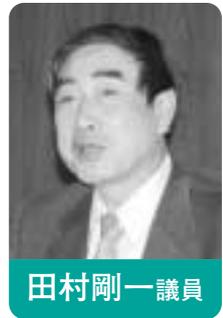




町の自立のため、産業振興は大きな課題です（塩蔵わかめ出荷の最盛期を迎え、忙しい山田の漁家）



田村剛一議員

町づくり

産業が光つてこそ自立の町

独自性を生かして取り組む

質問 施政方針から「小さくてもキラリと光る町」とか「水産業は町の基幹産業」といった表現が消え、代わって「自立」とか「新しい町づくり」という表現が目についた。山田町についての認識や町づくり構想は変わったのか。

沼崎町長 「自立」との

表現は、合併しないで自立の道を選ぶ決意をしたもの。自立のため当町の独自性を活かした町づくりが必須で、そのことを昨年まで「小さくてもキラリと光る町」と表現した。「自立」と何ら変わるものではない。

質問 産業が光ってこそ自立の町が開けるもの。当

町の考えを聞く

高校再編

山田高校3学級定員維持を

生徒の減少で現状維持は困難

町の基幹産業である水産業は、水揚げ減少をはじめ、さまざまな問題を抱え、大変な状況にある。第三者を

入れた特別対策委員会を立上げ、水産振興に取り組みべきと思うがどうか。

沼崎町長 厳しい漁業環境の中でカキ養殖は順調である。水産振興については、漁協組合長や参事で構成する水産懇話会や水産振興協議会があり、十分対応でき。新たな委員会の設置は考えていない。

質問 平成十七年から県立高校再編成計画（マスタープラン後期）がスタートする。町教育委員会は、この計画にどう対応するのか。

松尾教育長 この計画の柱は四つ。

①自立した個を確立するための環境整備

②特色ある学校・学科の設置

③地域社会との連携

④適正規模の学校配置

その内容は、適正な学校規模一学年四〜八学級程度とし、二学級の定員を満た

さない学校は原則として統合される。山田高校の二学級は維持できる。

質問 二学級規模の高校になると教育環境の低下が心配される。単独で生きる町として、山田高校の三学級定員維持を県教委に働きかけるべきと思うがどうか。

松尾教育長 学区制の変更、生徒の減少もあり、十六年度出願者は七十五人になった。三学級維持は難しいが努力はしてみたい。